

富士砂防事務所における広報業務の効率化及び、 担い手確保に向けた広報の取組みについて

加藤英樹¹・渡辺和樹¹

¹富士砂防事務所 総務課（〒418-0004 富士宮市三園平1100）

富士砂防事務所においては、現地見学案内や出前講師を年間2,000人程の方々に対し行っているが、これら広報業務のほとんどを調査課で対応しており、通常業務もある中で調査課に負荷がかかっている。これら広報業務について、一部の所属だけでなく事務所全体で取り組むよう、広報活動の内容を8つに分担するとともに、HPを活用するなど業務の効率化を図ってきたところである。

また、担い手確保に向けた広報の取組みについては、小学生を対象とした親子見学会の実施や、建設業協会と連携し、近隣高校生を対象とした出前講座や現場見学会（富士砂防管内現場等）を高校校長会へ提案してきたところである。

キーワード：広報活動，担い手確保，効率化

1. はじめに

広報活動は、年間2,000人程の方々に対して現場視察、出前講師を行っており、主に大沢扇状地、由比の地すべり工事の現場案内、富士山火山防災、事業概要の出前講師を行っている。

現場視察及び出前講師の平成26年度、平成27年度の回数は平成26年度に67回、平成27年度に80回行った。平成26年度及び平成27年度の8月までは、調査課が出前講座及び現場見学の受付、人員の割振り、配車の手配、会場の確保、行程管理及び整理まで全て行っていたが、通常業務との兼ね合いから、職員に負荷がかかっていた。

調査課の負荷を解消すると共に、広報活動の効率化の改善策について検討を行った。

また、担い手確保に向けた広報戦略については、静岡市と協力し、静岡市内の小学生を対象とした由比地すべり親子見学会や、静岡県及び富士宮市、富士建設業協会と協力し、富士宮市内の小学生を対象とした富士山砂防親子見学会の開催や、進路を検討している高校生をターゲットとし、建設業協会とタイアップし、建設業に関心を持ってもらう為に、建設業の説明及び意見交換会、現場実習（富士砂防管内現場等）を体験してもらうこととした。

2. 広報業務の効率化・改善策

(1) 事務所全体で取組む体制の構築

広報活動を事務所全体で取組むには、業務を分担する必要がある為、下記のとおり8つに分割し、人員の割振りを行った。

<8つに分割した業務>

- ① 出前講座・概要説明
- ② 大沢扇状地砂防施設見学
- ③ 由比地すべり対策施設見学
- ④ 源頭部（大沢崩れ）見学
- ⑤ 由比地すべり親子見学会（静岡市）
- ⑥ 富士山砂防親子見学会（富士宮市）
- ⑦ 旬の現場見学
- ⑧ 富士建設業協会と連携した担い手の確保活動

<各業務の分担>

- ① 出前講座 副所長（技）、事業対策官、調査課長
副所長（事）、総務課長、専門官
- ② 大沢扇状地 富士宮砂防出張所長、工務課長、工務係長、用地官
- ③ 由比地すべり 由比出張所長、地すべり対策課長、出張所係長、地すべり対策課専門職
- ④ 源頭部（大沢崩れ）見学 建設監督官、専門官

- ⑤ 由比地すべり親子見学会 地すべり対策課長、
由比出張所長、調査課長
- ⑥ 富士砂防親子見学会 工務課長、副所長（技）
富士宮砂防出張所長
- ⑦ 旬の現場見学 調査課長、各出張所長・係長
- ⑧ 富士建設業協会と連携 副所長（技）、調査係長

このように、役割分担を細かく決めることで、調査課が今まで対応していた広報業務について、事務所全体で行うことができ、業務改善につながる。

(2) 受付事務の改善策

現場案内、出前講師の受付事務については、総務課に一本化し、申込みの受付から日時・対応者の段取りを総務課長、専門官、総務係長で対応する。

また、申込用紙については、今までは電話でのやりとりとしていたが、HP（図-1）を活用し、定型フォームに記入していただき、送信先は総務課のメールアドレスに送信してもらい、申込者との調整や、講師及び現場案内の職員の調整も総務課で行うこととした。

項目	出前講座	概要説明
対応時間	平日:10:00~16:00 ※説明場所までの移動を考慮し調整 ※土日祝祭日は原則として対応できません。	平日:9:00~16:30 ※土日祝祭日は原則として対応できません。
受入人数	1回の見学者は、5名以上50名程度 ※個人での見学は対応できません。	1回の見学者は、5名以上30名程度 ※個人での見学は対応できません。
所要時間	1時間~1時間半程度	
説明場所	ご指定の場所 富士砂防事務所	
内容	富士砂防事務所の事業概要説明、火山に関する説明	
説明の申し込み	出前講座又は概要説明を希望される方は、下記の「出前講座・概要説明申込書」の様式に必要な事項を記載の上、メール等で送信願います。（必ず番信確認をお願いします。） 不明な点がありましたら、富士砂防事務所まで電話にて問合せ願います。	
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> ○説明は原則平日に行います。 ○お申し込みは、説明の2ヶ月前までに事前申し込みをお願いします。 ○申込みは原則1回以上の団体をお願いします。 ○業務の都合などで日時等をご希望に添えない場合があります。 ○また、天候の影響等で説明が急遽中止となる場合があります。あらかじめご了承ください。 ○説明は現地集合をお願いします。集合場所までの移動手段や費用は参加者でご用意下さい。 ○説明文は出前講座の様子(写真)をホームページや事務所広報誌に掲載したり、新聞掲載に提供する場合があり、その中に参加者の顔写真が含まれる場合もありますので、支障がある場合は、事前にお知らせください。 ○業務の都合や天候などの理由により、お断りする場合がございますので、ご了承願います。 	

www.cbr.mlit.go.jp/fujisabo/bousai.html

出前講座・概要説明申込書

（図-1）HPからの案内及び申込み方法

(3) 全ての職員が説明者となる

役割分担をおこなったが、大沢扇状地（写真-1）の現場案内は、平成27年度に25回、由比の地すべり（写真-2）の現場案内については、平成27年度に18回、また、出前講師（写真-3）は、平成27年度に10回と多くあったことから、説明者に負担がかかり、説明者が不在の際、日程調整を余儀なくされることで、再調整等の事務作業が余分にかかってしまっていた。

そこで、現場での説明者を育成することで、説明者一人に対し負担が掛からないようにすることを目的とし勉強会が行われた。

勉強会では大沢扇状地、由比地すべりの現場での説明と、模型（土石流、地すべり、溶岩流）の説明、3D溶岩流シミュレーションの説明について職員全員（事務

系職員含む）が説明出来るようにしたいと考えて行われた。

これにより、現場説明者が不在の際には、日程調整すること無く、代替りの職員が対応することでさらなる効率化になると思われる。



（写真-1）大沢扇状地の現場案内状況



（写真-2）由比の地すべり現場案内状況



(写真－3) 出前講師溶岩流実験状況

2. 担い手確保の取組

(1) 将来の担い手達に向けた広報

平成27年度の10月24日(土)に由比地区の地すべり対策施設親子見学会(写真－4)を開催、10月31日(土)に富士山周辺の砂防施設親子見学会(写真－5)の開催を行った。



(写真－4) 由比地区の地すべり対策施設親子見学会



(写真－5) 富士山周辺の砂防施設親子見学会

各見学会の目的は、小学生と保護者を対象に、普段見ることができない工事現場を見ることで事業の大切さを理解してもらい、工事現場に興味を持ってもらうことで、将来の担い手候補となってくれればと思い開催した。

地すべり対策施設親子見学会には、14組35人の親子に参加してもらい、砂防施設親子見学会には、14組32人の親子に参加してもらった。

参加者には、どのように感じたかなどのアンケート(表－1)をお願いした結果では、由比地区の地すべり対策施設親子見学会及び富士山周辺の砂防施設親子見学会に参加された方のほとんどの方が、工事現場を見たくて参加したと答え、工事現場に興味があることが解った。

また、工事の人たちのことをどう思うかについては、

「カッコよかった」などと、将来の担い手候補につながりそうなアンケート結果となった。

開催に協力していただいた、県及び市や建設業協会の方々の意見としては、継続して続けて行きたいと前向きな意見が寄せられた。

(表－1) アンケート結果抜粋(砂防施設親子見学会)

子供用アンケート結果(抜粋)

子供人数:18人

Q4:見学会で楽しかった内容に○をつけてください。 (いくつかつけても良いです。楽しくなければひとつも○をつけなくても良いです) 【複数回答あり】	砂防ダムの説明	2
	建設機械の運転体験	16
	ドローン(ラジコン)を使った撮影	9
	固めた土(インセム材)づくり、説明	13
	パネルの展示	3
	土石流模型	12
	溶岩が流れる映像	12
	大沢懸伏地の説明	2
	距離をはかる体験	12
	その他	0

Q5:工事の人たちのことを、どう思いましたか? (いくつか○をつけても良い)	カッコよかった	12
	大変そうだった	10
	よこれそう	4
	楽しそうだった	3
	工事の仕事をしてみたい	7
	工事の仕事はやりたくない	0
	その他	3

親子見学会については、より多くの方々に知ってもらうことを目的として、取り組んだ結果、由比地区地すべり対策親子見学会は建通新聞に掲載され、富士山周辺の砂防施設親子見学会は、岳南朝日新聞、静岡新聞(図－2)に掲載された。

今後も継続的に親子見学会等を開催し、将来の担い手候補者を増やせるように開催していく。



(図－2) 静岡新聞朝刊第18面に掲載

(2) 若手技術者達の離職防止

近年では、せっかく建設業に就職しても、きつい、汚い、危険、上下関係が上手くいかないなど、離職してしまうケースが多く見受けられる。離職防止の取組の一つとして、女性技術者による座談会(写真－6)を開催した。女性技術者が建設現場で困ることとは?働きやすい職場とは?建設業における担い手不足解消にむけ、女性も活躍出来る現場環境づくりとは?今後の取り組みの参考にするため、発注者・受注者双方の立場から女性技術者の視点で意見交換を行う機会を設け、参加者各位と情報交換を行うことで、女性目線での3K(きつい、汚い、危険)のイメージに払拭効果が期待できると思われる

る。この座談会では、発注者側として静岡河川事務所技術係長2名及び本局技官1名、受注者側として各建設業者4名、聴講者として専門学校生4名、事務局として富士砂防事務所事務係長1名、事務官1名、協会の方1名と全て女性計14名で行われ、テレビ局2社、新聞社7紙で取り上げられ、広報効果は絶大だった。

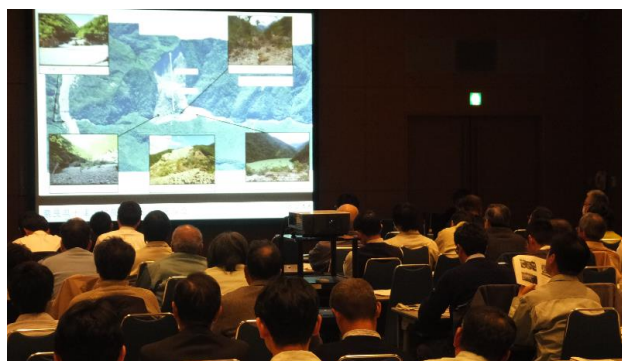


(写真－6) 女性技術者による座談会

また、建設業関係者・地元自治体の若手技術者を対象に溪流点検技術研修(写真－7)、砂防勉強会(写真－8)を開催した。

就職後、いきなり現場へ入り、何を作っているのか、何のための工事なのか、分からないまま建設現場、防災現場で苦慮している。そこが離職に繋がる原因の一つと考えられる。

溪流点検技術研修では「点検にあたっての心構え」砂防勉強会では「砂防事業とは」といった、基礎知識を講義し、建設業の重要性を理解して頂き離職防止対策につながればとの思いで実施し、今後も勉強会を開催し、若手技術者の離職防止になるように継続して行くことが重要と思われる。



(写真－7) 溪流点検技術研修



(写真－8) 砂防勉強会

3. まとめ

広報業務の改善については、取組を初めて1年経過していないこと、現場案内や出前講師の内容及びボリュームによって、人員数が変わってくる為、業務改善前と後との比較は難しいが、全職員で対応していくことは業務改善につながると思われる。

また、担い手確保に向けた取組については、すぐに見てとれるほど、成果が分かるものではないが、今年度も、富士・富士宮地区の高校生との職場一日体験、女性技術者と女子高生との座談会、富士・富士宮地区の高校とのインターシップ、富士宮高校会議所との防災教育、若手技術者との勉強会の開催を検討しており、担い手確保に向けてさまざま取組を行っていき、小中学生や高校生、先生や親達にも理解してもらい、進路先や就職先に建設業を選択肢の一つに入れてもらえるよう活動を進めるとともに、若手技術者が建設業界を辞めないための関係づくりに協力して行くことも重要であると考えます。